# 「湯前まんが美術館」設立の経緯
## ～熊日・窪田隆穂氏の手記から～

「記念館は単に那須作品を収蔵する「美術館」ではなく人間・那須良輔が故郷に思いを託した、その精神が受け継がれていく「ふるさと記念館」といったものでありたい。そこは二十一世紀へ、次代を育てる場でもあり、町民各層が文化、ふるさと談義をかわす場としたい」（湯前町教育委員会『追悼 那須良輔』,1992,p.120）

良輔の妻・美代夫人は、窪田氏と湯前町の熱意を受けて多くの那須作品を町へ寄贈。その際、新聞博物館が作品の一時的な受け入れ先となり、窪田氏を中心として整理・保存が行われました。こうして、湯前町の「湯前まんが美術館―那須良輔記念館―」に、原画だけで7,113点、関連資料を含めると1万点を超える那須良輔資料が収蔵されることとなったのです。